

2016年度 日本臨床検査医学会 臨時社員総会だより

日 時：2016年9月1日（木）16：30～18：00

場 所：神戸国際会議場 1F メインホール（第1会場）

I. 開会、II. 理事長挨拶

開会に先立ち、名誉会員の屋形稔先生（元 新潟大,享年90歳：2015/11/24）、福武勝博先生（元 東京医科大学,享年99歳：2016/2/3）、大場康寛先生（元 近畿大学,享年86歳：2016/2/21）、川出眞坂先生（元 岐阜大学,享年91歳：2016/5/14）功労会員の中野博先生（元 奈良県立医科大学,享年82歳：2015/11/30）の逝去を悼み黙祷がなされた。

続いて矢富裕理事長より挨拶があり、定款に基づき矢富裕理事長が議長となつて、委任状が74通で出席者（約140名）と合わせ評議員（社員）数（240名）の2分の1以上（121名以上）の出席を満たしており会は成立することを告げ議事を進行した。

III. 報告事項

1. 各種委員会活動報告（東條尚子 庶務理事）

2016年度各種委員会活動について、各委員会のまとめが資料として用意され、主なものについて報告された。

1) 学術推進化委員会（委員長：柳原克紀、担当理事：前川真人）

- ①平成26・27年度学術推進プロジェクト研究最終報告について
第63回学術集會会期中の2016年9月2日に最終報告を実施する。
- ②平成28・29年度学術推進プロジェクト研究採択課題について
平成28・29年度学術推進プロジェクト研究には12課題の応募があった。
そのうち4課題を採択するとともに、その助成金額を決定した。
助成金は、例年通り100万円（1名）50万円（3名）とした。
- ③第63回学術集會会期中に開催される委員会で、今後の方針等について、議論する予定である。

2) 編集委員会（委員長：福地邦彦、担当理事：村上正巳）

- ①編集委員が交代した。編集副委員長を選出した。
- ②臨床病理閲覧サービスが可能となった。通常号の不足分の補完を行った。なお、これまでの補冊（学会抄録集）については閲覧サービスには載せないこととした。
- ③本年度の優秀論文賞候補論文を選出し、学会賞委員会に報告した。
- ④巻頭部分に毎号掲載されている書類についてはホームページ等を活用することを検討することとした。
- ⑤審査・査読の期間の厳守に努めることとした。

3) 教育委員会（委員長：本田孝行、担当理事：山田俊幸）

第63回学術集會において、昨年同様に2016年9月4日（日）午前午後、同一会場で専門医資格更新を睨んだ生涯教育的企画をたてた。

- ①RCPC1 2016年9月4日（日）9：00～10：30
- ②RCPC2 2016年9月4日（日）10：30～12：00
- ③臨床検査医学 catch up セミナー 2016年9月4日（日）13：10～16：10
 - ・超音波検査のガイドラインと最近の動向
 - ・脂質異常症検査の活用法 ―高トリグリセライド血症の検査手順―
 - ・今、臨床検査のエビデンスを見直す

- ④ワークショップ「専門医時代 ～臨床検査医学がアピールできること～」を企画した。
2016年9月3日(土) 10:40-11:40 「臨床検査専門医のワークライフバランス」
2016年9月3日(土) 13:10-12:10 「臨床検査専門医の生涯教育」

4) 臨床検査点数委員会 (委員長: 古川泰司、担当理事: 東條尚子)

- ①委員選出後の第一回委員会は、臨床検査専門医会・保険点数委員会と合同で、9月2日に開催予定である。

5) 標準化委員会 (委員長: 菱沼 昭、担当理事: 前川真人)

- ①TSH測定値のハーモナイゼーションの試みとして、前委員長日高先生の前で行なわれたTSH4試薬の測定値の変換式の論文が臨床病理64(4):375-379に掲載された。
②PhiladelphiaでAACCCが開催され、IFCCの甲状腺機能標準化委員会(C-STFT)があった。2018年を目に世界同時に甲状腺機能試験FT4とTSHを標準化することを目的としているが、今回、白人を対象とする基準値の設定が報告された。本委員会では日本人の基準値設定を議論する。

6) 精度管理委員会 (委員長: 菊池春人、担当理事: 宮地勇人)

- ①2016年度CAPサーベイ参加施設数は、120施設(対前年3施設減少;)。試料配送に問題はない。新規導入項目のうち、HbA1c、BNP、シクロスポリンはいずれも10を超える施設が参加を希望した。
②臨床検査室グローバルニュースは、臨床検査(室)の精度保証や安全および海外検査事情に関する情報誌として、年4回発刊中である。理事会、利益相反委員会の審議に基づき、執筆者の雇用開示、広告掲載のあり方について対応中である。

7) EBLM委員会 (委員長: 片岡浩巳、担当理事: 小柴賢洋)

- ①本年学術集会時の教育セミナーとして、「検査診断学に必要なデータ解析の極意」をテーマに開催する。
昨年度受講者のアンケートを元に、初級編として「逆引きEXCELを用いたデータ編集の極意」、中級編として「多重ロジスティック回帰分析の極意」の内容とした。
②EBLM関連研究として、パネル血清で測定値の調和化を確保し、多施設共同で症例別疾患データベースを構築するプロジェクトを実施する

8) 倫理委員会 (委員長: 通山 薫、担当理事: 諏訪部章)

- ①去る5月16日に日本医師会館にて、日本医学会第2回研究倫理教育研修会が開催され、委員長の通山が出席した。医学雑誌に関してオーサーシップの厳格化、製薬協の表明による研究支援金制度導入の方向、等の内容を倫理委員にメール報告済み。
②医学系研究に関する倫理指針をふまえて、既存試料の取り扱いガイドラインを運用しやすい形に改訂すべく、協議中。

9) 利益相反委員会 (委員長: 佐藤尚武、担当理事: 諏訪部章)

- ①第63回学術集会において、日本臨床検査医学会としては初めての利益相反に関する教育講演である「臨床研究と利益相反(COI)管理: 具体例から学ぶ!」を企画した。
②第63回学術集会期間中に新メンバーによる第1回委員会を開催する。

10) ガイドライン作成委員会 (委員長: 古川泰司、担当理事: 東條尚子)

- ①常任幹事会より、以下の3点について委員会での意見をとりまとめるよう要望があり、メール審議が行われた。委員会での審議事項として取り上げている。1) JCCLS作成の「フローサイトメトリーによ

る CD34 陽性細胞検出に関するガイドライン」(案)、2) 特定健康診査・特定保健指導の在り方について、3) 生化学検査単位の医師国家試験における扱いについて。

②委員選出後の第一回委員会は、9月1日に開催予定である。

11) 検査項目コード委員会 (委員長：康 東天、担当理事：伊谷直人)

①2016年度は1回の委員会を開催した。JLAC10の新規登録を、分析物コード12件、識別コード4件、結果識別(固有)コード167件、実施した。

②JLAC11について継続検討を実施している。2015年度に募集したJLAC11のパブリックコメントへの回答を公開した。

12) 広報委員会 (委員長：小柴賢洋、担当理事：木村 聡)

①学会ホームページ改訂作業は矢富理事長以下にも参加して頂き、案が確定、アップに向けて作業中。

②年次学術集会中に新専門医制度アドホック委員会、臨床検査専門医会広報委員会と合同委員会を開催する。

③②の活動として、若手会員や女性会員を中心に以下の企画が進んでいる

- A. 検査専門医の日常を綴ったホームページを別に立ち上げ、専門医会HPにリンクする
- B. 検査室や学会の雰囲気を写真で公開し、専門医試験合者による手記を掲載する
- C. 専攻医獲得を目的に、研修医向けの雑誌に検査値ピットフォール等に関する連載を開始する

13) 新専門医制度広報アドホック委員会 (委員長：田部陽子、担当理事：山田俊幸)

①初期研修医および他領域医師に向けて臨床検査専門医の職務内容をアピールする目的で、日本臨床検査医学会ホームページ上にQ&A方式の広報サイトを立ち上げた(2016年2月)。

②臨床検査振興協議会による「厚労省霞ヶ関子ども見学デー」(2016年7月)での広報活動に参加・協力した。

③日本医師会と東京女子医大の女性医師復職支援センターにホームページQ&A原稿と臨床検査専門医の紹介文を提出し、臨床検査医学に関心のある復職希望医師の紹介を依頼した。

④ホームページ上に「キャリア転向を考える医師」向けの広報説明文の掲載を準備中。

⑤レジデントノート(羊土社)誌上で初期研修医向けの臨床検査紹介の長期連載(日本臨床検査専門医会広報委員会と合同企画、2017年4月開始予定)を準備中。

14) 遺伝子委員会 (委員長：前川真人、担当理事：宮地勇人)

①遺伝子関連検査の展開を踏まえて、各種ガイドラインの内容検討を行った。

②新規ゲノム解析技術の実用化に関する諸課題への対応策を検討した。

③健康・医療戦略推進本部の下に設置された「ゲノム医療等実現推進タスクフォース」に参加し、具体的な方策の検討を行った(2015年11月～2016年7月)。

④第5回一級・第10回初級遺伝子分析科学認定士試験(本学会/日本遺伝子分析科学同学院 共同認定)を実施した。

15) 国際委員会 (委員長：石井潤一、担当理事：村上正巳)

①2016年度国際学会奨励賞受賞候補者に井上直哉氏、浦みどり氏、新井慎平氏を推薦した。

②WASPaLM、ASCPaLM限定のシンポジウムまたはワークショップに招聘されて発表した医師以外の発表者3名以内に対して助成を行うことを目的とした国際学会参加補助金制度が理事会で承認された。本年度は坂本秀生氏を推薦した。

③第14回ASCPaLM(2016年3月25～3月27日 台北)が開催され、関係者が出席した。

16) 医療安全委員会（委員長：中谷 中、担当理事：小柴賢洋）

- ①第 63 回学術集会（2016 年、神戸）において、シンポジウムとして医療安全講習会「医療事故調査制度に関わる臨床検査および病理部門の役割」および医療倫理講習会「医事紛争の現状」が 9 月 3 日に企画されている。
- ②「医療安全全国フォーラム 2016」が 11 月 18 日に開催予定である。

17) 会則改定委員会（委員長：東條尚子、担当理事：✕谷直人）

附則として、「監事任期中は功労会員の推薦対象とならない」を追記することについて細則の改定案を作成し、理事会の承認を得た。

18) チーム医療委員会（委員長：諏訪部章、担当理事：柴田綾子）

- ①2016 年度・2017 年度のチーム医療委員会委員を選出した。前年度の委員に加え、米山彰子前担当理事が委員として加わった。
- ②第 63 回学術集会（神戸）で本委員会企画シンポジウムを申請したが、会場などの都合により採択にならなかった。9 月 3 日に開催される第 1 回委員会において今後の活動を検討する予定である。

19) 学術集会企画委員会（委員長：村田 満、担当理事：木村 聡）

- ①当委員会は、旧「学術集会あり方委員会」の議論に基づき理事会で承認された学術集会開催方針に従い、学術集会の運営を具体的に企画することを目的に 2016 年 3 月に発足した。
- ②活動内容は、
 - 1)学術集会の開催に関する事項全般を検討すること、
 - 2)年次学術集会のプログラムがある程度連続性を持つよう、シンポジウムや教育講演、他学会との共催シンポジウムなどを調整しつつ数年度分を企画してゆくことである。
- ③今回の委員会は 2018、2019、2020 年度の学術集会を担当する予定である。
- ④上記 3 回の学術集会は、（株）コンベンションアカデミアが担当することが既に決定している。
- ⑤9 月 1 日に第一回委員会を開催する。

20) ワークライフバランス委員会（委員長：田部陽子、担当理事：山田俊幸）

- ①2016 年度より委員会名を「女性支援 WG」から「ワークライフバランス委員会」に改称した。
- ②第 62 回学術集会で託児室利用者アンケートを実施した。利用料金の統一化と利用者増加（2015 年 3 名）が課題であることが示された。
- ③「大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会 -よりよい男女共同参画を目指して-」（日本医師会、日本医学会共催、2015 年 12 月）に委員長が出席した。
- ④第 63 回学術集会でワークショップ「新専門医時代 ～臨床検査医学がアピールできること～」（臨床検査医学会教育委員会、ワークライフバランス委員会、臨床検査専門医会教育研修委員会 共催）を企画、実施する。
- ⑤ホームページ上に「復職を希望する女性医師」向けの広報説明文の掲載を準備中。

21) 熊本地震対策委員会（委員長：✕谷直人、担当理事：✕谷直人）

- ①2016 年 4 月 14 日の地震発生により、当委員会を 4 月 17 日に発足
- ②臨薬協、日臨技、卸連合会の協力のもと臨床検査物資の支援を実施
- ③2016 年 5 月 27、28 日に被災地視察
- ④2016 年 8 月末をもって支援を終了
- ⑤報告書の作成作業に着手

22) 研修施設・指導者認定委員会（委員長：村上正巳）

1月1日、7月1日付での新規申請施設および再認定施設の研修施設・指導者についての適否の審査を行い、審議会に報告した。

23) 受験・更新資格審査委員会（委員長：菊池春人）

本年度の臨床検査専門医・管理医の受験資格について審査を行った。

- ①専門医受験希望者 29 名について全員を有資格と判定し、第 1 回臨床検査専門医・管理医審議会に報告して承認を得た。
- ②管理医受験希望者 22 名について全員を有資格と判定し、第 2 回臨床検査専門医・管理医審議会に報告し承認を得た。

24) 試験委員会（委員長：宮地勇人）

- ①日本専門医機構の整備指針に基づき、臨床検査専門医認定試験の客観性、透明性、公平性を確保するため、試験のあり方の検討を行い、臨床検査専門医・管理医審議会での審議を踏まえ、試験の見直しを順次行っている。
- ②第 33 回試験（2016 年度）について、出題基準、出題範囲の公示を行った。筆記試験にて多肢選択問題を拡大し、実技試験の出題方式として動画試験を拡大した。
- ③実行委員会と合同会議を開催にて、試験問題のブラッシュアップを行った。
- ④試験の配点の標準化、多肢選択問題にマークシート方式による採点システム導入、総合判定基準の見直しを行った。
- ⑤試験実施内容の評価と合否の最終判定を行った。

25) 専門医制度検討委員会（委員長：木村 聡、担当理事：山田俊幸）

- ①年次学術集会中に Subspecialty 検討小委員会（村上正巳 委員長）と合同委員会を開催する。
- ②新専門医制度に伴うダブルライセンスの方策と、2 階建て部分となる学会に関する審議を予定している。

26) 2016・2017 年度臨床検査専門医認定試験実行委員会（委員長：渡邊 卓）

7月23日（土）、24日（日）に、第33回臨床検査専門医認定試験を実施した。

27) 2016・2017 年度臨床検査管理医認定試験実行委員会（委員長：東條尚子）

平成 28 年 10 月 2 日（日）、東京医科歯科大学において、第 8 回臨床検査管理医講習・認定試験を実施する予定である。

28) 学会賞委員会（委員長：岩谷良則、担当理事：戸塚 実）

6月30日に学会賞委員会が開催された。厳正な審査の結果、学術賞：伊藤弘康氏、検査・技術賞：松本智子氏、若手研究者奨励賞：菊地良介氏を候補者とする事が決定した。

優秀論文賞は、編集委員会で推薦された和田晋一氏、市野直浩氏、柳田光利氏を候補者とする事となった。後日行われた理事会で、これらの候補者を今年度の学会賞受賞者とする事が承認された。なお、理事会で、宮澤幸久氏に河合忠賞を授与する事が決定した。

2. 第 64 回日本臨床検査医学会学術集会報告（京都 2017/11/14(火)～11/19(日)）（矢富 裕 理事長）

国立京都国際会館（京都）において、2017 年 11 月 16 日（木）～11 月 19 日（日）に、テーマ「次世代の医療の進歩への貢献」（Contribution to Medical Innovation of the Next-Generation）として第 64 回学術集会を、11 月 14 日（火）～11 月 17 日（金）に第 29 回世界病理学・臨床検査医学会連合会議（The 29th World

Congress of World Association of Pathology and Laboratory Medicine (WASPaLM) を合同会議として開催予定であることが報告され、村上会長から一言挨拶があった。

3. 第 65 回学術集会報告（東京 2018/11/15(木)～11/18(日)）（矢富 裕 理事長）

2018 年 11 月 15 日（木）～11 月 18 日（日）に、京王プラザホテル（東京都新宿区）で、村田満会長（慶應義塾大）のもと開催されることが報告され、村田会長から一言挨拶があった。

4. 細則の一部改定について（矢富 裕 理事長、東條尚子 会則改定委員会 委員長）

定款ならびに細則により、評議員を定年退任した監事は、功労会員への推薦が可能である。しかし、監事在任中は本会執行部として業務を遂行することが優先されるため、評議員退任後の会員種別は正会員であるべきとなり、細則附則に、「監事任期中は功労会員の推薦対象とならない。」を追記したことが報告された。

5. 臨床検査専門医制度規定の一部改定について（矢富 裕 理事長）

臨床検査専門医 認定更新制度規定 8.について、保留期間 5 年経過後の失効年数の制限を撤廃したこと、受験・更新資格審査委員会内規 1～3. に、管理医試験に関する記載がなかったため、追加したことが報告された。

6. 国際学会参加助成金制度について（矢富 裕 理事長、村上正巳、国際委員会 担当理事）

WASPaLM、ASCPaLM に限定し、医師以外の講演者で他の補助を受けていない者を対象として、国際学会参加補助金制度を設けたことが報告された。

7. 新専門医制度関連事項について（山田俊幸 副理事長：日本専門医機構 臨床検査領域代表）

1) 日本専門医機構新体制の現況（機構第 4 回理事会報告）

日本専門医機構は役員が交代となり、従来の方針が見直され、再検討後、2018 年度に新しい制度の開始を目指すことについて、各学会に理解が求められたことが報告された。

2) 本学会の対応

機構の方針を受け、新制度による研修は 2017 年度開始を見送り、2018 年度開始を目指す。2017 年度についてはこれまでどおり各施設の募集として、現制度で研修中の専攻医を含め、研修登録票の提出を徹底することとした。そして、今後は、以下のように進めていく予定となったことが報告された。

- ・一次審査で認定された研修プログラムは、マイナーチェンジしてもらうにとどめる。
- ・セカンドキャリア用モデルプログラムを策定し、機構と摺合せを行う。
- ・サブスペシャルティ学会の検討を行う。
- ・更新は、2016 年度からの機構専門医による更新を見送り、しばらくは学会の専門医更新とする。

なお、昨年開始した機構専門医更新のための講習会での取得単位は、学会専門医の更新単位として、同単位数で認めることとした。

8. ホームページ関連事項について（矢富 裕 理事長）

当会の HP リニューアルについて、現在、常任理事、広報委員会、依頼業者による更新作業が行われており、間もなくアップできる予定であること、また、HP のリニューアルが完了後にバナー広告の募集を行うことが報告された。

9. その他（矢富 裕 理事長）

特になし。

IV. 審議事項

1. 2016年度補正予算案・2016年度中間実績報告・2017年度予算案について（諏訪部章 会計理事）

2016年度補正予算案、2016年度中間実績、2017年度予算案（後頁に掲載）が提示され、諏訪部章会計理事より、昨年との比較により増減がある項目について以下の説明があり、承認された。

○2016年度補正予算案

（一般会計；収入）

- ・増額した項目：賛助会費は2015年度決算に合わせた。専門医受験料は実績に合わせた。新専門医制度関連の項目を設けた。検査診断事典は実績に合わせた。
- ・減額した項目：外販は2015年度実績に合わせた。
- ・新設項目：新専門医制度関連

（一般会計；支出）

- ・増額した項目：機関紙発行は2015年度決算に合わせた。会議費は中間実績に合わせた。専門医認定試験費用は実績に合わせた。給与手当、法定福利費、退職金掛金は事務職員1名増員のため。
- ・減額した項目：各種委員会活動費、旅費交通費、通信費、事務用品・印刷・リース費、事務所諸経費、備品代、水道光熱費。
- ・新設項目：国際学会参加補助金、新専門医制度関連

（特別会計；支出）

- ・4月14日に熊本地震が発生したことにより500万円を上限とした対策費用等を予算立てした。
- ・日本専門医機構より運営資金の借入れ要請があったため300万円を上限として貸付可能とした。

○2017年度予算案

例年同様に立ててあるのに加え、事務局員増員のための費用を捻出した。2016年度補正予算と同様、国際学会参加補助金、新専門医制度関連の収支を追加した。

2. 2016年度事業中間報告について（東條尚子 庶務理事）

2016年度事業中間報告があり承認された。（後頁に掲載）

3. 2017年度事業計画（案）について（東條尚子 庶務理事）

2017年度事業計画（案）が提示され承認された。（後頁に掲載）

4. 2017年度からの功労会員・評議員（社員）の推薦について（矢富 裕 理事長）

- ・功労会員として、各支部から推薦され理事会で承認された下記6名が推薦され承認された。

関東・甲信越支部から川杉和夫先生、東 克巳先生、細萱茂実先生、東海・北陸支部から竹村正男先生、野島孝之先生、九州支部から津田博子先生。

- ・評議員（社員）として、各支部から推薦され理事会で承認された下記13名が提示され承認された。

東北支部から志村浩己先生、廣川 誠先生、関東・甲信越支部から石井直仁先生、上原 剛先生、長田 誠先生、萩原三千男先生、平山 哲先生、増田亜希子先生、東海・北陸支部から木村秀樹先生、近畿支部から正木 充先生、九州支部から竹内正明先生、前田士郎先生、松井啓隆先生

5. 評議員（社員）再任予定者（2017/01/01）について（矢富 裕 理事長）

2017年1月1日付評議員（社員）の再任手続きは、12月下旬の評議員審査委員会での審査、審議会後となるが、評議員（社員）の再任には社員総会の承認が必要で臨時社員総会の承認を得ておく必要があるため、2017年1月1日付の評議員（社員）再任予定者52名が提示され、再任単位を満たさない場合や辞任された

場合は退任となる場合もあることを前提としたうえで承認された。

6. 第 66、67 回（2019、2020 年）学術集会長について（矢富 裕 理事長）

事務的効率化、経費の縮小などのため運営会社を 2018 年から 3 年間固定し、また、2020 年には東京オリンピックが開催されるため会場を早めに確保するのが望ましいため 2019 年度、2020 年度までの学術集会長を決定することとして、中国・四国支部から推薦された通山薫先生、東北支部から推薦された諏訪部章先生を、それぞれ、2019 年度、2020 年度会長として推薦され、承認された。

承認後、通山 薫先生と諏訪部章先生から一言挨拶があった。

7. 2016 年度に係る定時社員総会について（矢富 裕 理事長）

2016 年度に係る定時社員総会について、多くの評議員に出席いただく機会であるので、開催に合わせて講演会を開催すること、実際には、2017 年 3 月 26 日（日）、東京大学鉄門記念講堂を会場とし、講演者は、参議院議員で日本臨床衛生検査技師会の宮島喜文会会長、日本臨床検査専門医会の登勉会長に依頼する予定であること、そして、社員総会では委員会活動報告を委員長（担当理事）によりスライド等を使用した報告とし充実させることが提案され、承認された。

8. 評議員の責務について（矢富 裕 理事長）

臨床検査専門医認定試験での実行委員会委員選定の際に、実行委員選定、臨床病理での査読委員について苦渋することがあるため、評議員の責務として協力いただくべきとの提案があり、承認された。

実際には、名簿作成の際に、各自の専門領域欄を設けて参考とする予定。

9. 功労会員 3 年以上の会費未納者の扱いについて（矢富 裕 理事長）

会員細則では、3 年以上の会費未納者は退会事由となるが、3 年以上会費未納の功労会員（約 15 名）の扱いについて、本人からの退会意向がない限り終身功労会員として名前は残すが、功労会員としての権利は有さないことが提案され、承認された。

10. 日本専門医機構からの借り入れ調査依頼、事務局員支援について（矢富 裕 理事長、山田俊幸副理事長）

運営資金借入の調査依頼があったことについて、社員として協力し 300 万円を限度に貸出可とすることが提案され、承認された。なお、事務局職員支援要請については、当会でも手が足りていない状況であるため断ったことが報告された。

11. その他（東條尚子 庶務理事）

2016 年度に係る定時社員総会は、2017 年 3 月 26 日（日）15:00～17:00（※講演会：13:00～14:40）、東京大学医学部鉄門記念講堂（教育研究棟 14 階）で開催予定であることが報告された。

V. 閉会（山田俊幸 副理事長）

山田俊幸副理事長から閉会の挨拶があり、臨時社員総会を閉会した。

2016年度 日本臨床検査医学会 総会だより

日 時：2016年9月2日（金）11：00～12：00

場 所：神戸国際会議場 1F メインホール（第1会場）

出席数：約150名

まず、矢富裕理事長より挨拶があった。

そして、第63回学術集会長の小柴賢洋会長が議長となって議事を進行した。

臨時社員総会と同じ内容の報告がなされた。

その後、表彰式（功労会員顕彰、学会賞・功労賞受賞式、国際学会奨励賞）が執り行われた。

山田俊幸副理事長より挨拶があり総会を閉会した。